

ETAJIMA **GoON!** Vol.20

interview ———— 次の世代へ『感謝』を伝え続けられる場所に。

小中学生のバスケットボールクラブ・CISE(シーズ)。週末の夜、子どもたちと一緒に走り、声を出し、汗を流しているのが、クラブの代表を務める大野潤さんだ。仕事と両立しながら指導を続ける大野さんが子どもたちに伝えたいこと、期待するCISEの未来とは。

『考動』の大切さをみんなで一緒に学んで

バスケットボールクラブ・CISE。平日は溶接業を仕事に、週末はCISE中学生の部代表として、子どもたちにバスケットボールの指導を行っているのが大野潤さんだ。CISEは大きく分けて小学生と中学生の2団体があり、在団する子どもの多くは、それぞれ通う学校でテニス部や陸上部など、違う部活に所属しながらバスケをしているそうだ。「練習は能美中学校で毎週末の17時から20時まで。彼らは、次の日朝早くから学校もあるのにいつも頑張っている練習しています！」と優しい眼差しで話をしてくれる大野さん。実は、昔からバスケをやっていたわけではなく、本格的に始めたのはCISEのコーチになってからだという。「CISEに自分の子どもが入団したので毎日練習を見に行っていたら、当時の代表の方にコーチをやってみませんか？というお声がけを頂いたんです。そこからですよ、性根を入れてバスケの勉強をし始めたのは。20歳くらいから、見よう見まねでバスケはしてましたが、細かいルールも知らないし、基本的なことも分かりませんでした(笑)」そんな大野さんがなぜコーチになったのか。それは、当時の代表から教えられたクラブの方針に共感したからだった。「CISEはバスケだけでなく『感謝』を伝える場所。横断幕に書かれている『考動』をみんなで教える場所なんです」

バスケができることも、普段の生活も当たり前なことではない。よく考えたら、周りには感謝すべきことがたくさんあるんだということを、クラブの活動を通して子どもたちに伝えていく。「話を聞いた時、バスケのコーチというよりも、子どもの育成につながる活動ができることに感動したんです」送迎をしてくれる保護者がいないと練習に行けない子どももいる。地域の人が協力してくれるから練習場所がある。お父さん・お母さんが一生懸命働いてくれるからシューズを履けている…こうしたことに感謝して『今、自分ができることを考えて動く』ということ、クラブの活動を通して伝えているCISE。「バスケの練習はもちろんですが、たくさんの人と関わることによって、周りにたくさんある感謝すべきことを知ってほしい、という思いを持って僕たちは活動しています」

島の子どもたちが輝く大切な場所・CISE

クラブ名は、Children/Important place/Sparkle/Etajimaの頭文字を取ったもの。『島の子どもたちが輝く大切な場所』という意味だ。現在、中学生の部は11人が在団中、高校生か大人が対戦相手となって練習をしている。「実力がどれくらいなのか体感させてあげたいのですが、中学生同士で対戦するのは島では難しいんです。それでも今、全国的にクラブチームでも中体連に出れるようなシステム



CISEへの問い合わせは080-5555-2382まで
小学生の部▶cisesportsboyscouts@outlook.com(男子)/slamcisedunk@yahoo.co.jp(女子)

に移行し始めているという話を耳にして、できることをみんなで頑張っている。もし中体連に出れるようになったら、部活動との併用は厳しいので、子どもたちには厳しい選択をしてもらうことになるのですが…。僕は一生懸命練習を頑張ってきた子どもたちを、どうにかして試合に出してあげたいと思っています」

難しい環境であっても、いつか自分が教えた子どもたちがCISEでコーチとしてバスケを教えてくれたら嬉しいと話す大野さん。「上手くなるのはもちろん、CISEでの経験を通してたくさんのことを学んでほしい。この活動を通して気づく『感謝』の気持ちを、今度は教えている子どもたちが次の世代に伝えてほしいですね」



CISE 代表 大野 潤 さん

ETAJIMA
GoON!
(ゴー・オン)

市内で活躍する人やお店をリレー形式で毎月紹介。掲載された人が次の取材先を紹介する、“つなぐ・つながる”をテーマにした企画です。A3判(フルカラー)を市役所や市内各所、電子版で見ることができます。



スマートフォンを持っていない方も貸し出し対応！キャリア（ドコモ、au、ソフトバンクなど）不問

江田島市無料スマホ教室を開催します

☎ 総務課 ☎ 0823-43-1111(代)

市民の皆さん（スマートフォン初心者）を対象とした無料スマホ教室を開催します。
参加したい教室を指定して総務課に電話で申し込んでください。（各回11人・先着順）

月日	時間	内容	場所
1月12日(木)	13:30～14:30	スマートフォンでインターネットを使おう	広成建設(株)江田島研修センター (旧切串中学校)
	15:00～16:00	スマートフォンでアプリを楽しもう	
1月19日(木)	13:30～14:30	スマートフォンでインターネットを使おう	大柿市民センター
	15:00～16:00	スマートフォンでアプリを楽しもう	
2月13日(月)	13:30～14:30	スマートフォンでインターネットを使おう	鹿川交流プラザ
	15:00～16:00	スマートフォンでアプリを楽しもう	
2月16日(木)	13:30～14:30	スマートフォンでインターネットを使おう	三高交流プラザ
	15:00～16:00	スマートフォンでアプリを楽しもう	

※ 1月12日(木)は大柿高校3年生がサポーターとして参加予定です

・「スマートフォンでインターネットを使おう」…スマートフォンでインターネットに接続して情報検索を試みたい方におすすめです。

・「スマートフォンでアプリ*を楽しもう」…スマートフォンアプリを使ってみよう方におすすめです。

*アプリ…「地図を見る」「音楽を聴く」「写真を撮る」など、特定の目的を果たすためのプログラム



心とココロの交流

色褪せない思い出と
変わらない居心地の良さ

短大を卒業し保育士として働いている早出さんは、土日の休みを利用して友人と2人で8時間かけて長野県から江田島市までやってきました。市内の天狗岩や豆ヶ島、三高山砲台跡地や入鹿海岸などの観光スポットを回った後、念願だった田口さんのお宅に到着。みんなで4年前に早出さんから田口さんへ宛てたお礼の手紙を読み返し、思い出を振り返りました。

「市内の道や景色を未だに覚えていて懐かしかった。修学旅行当時の島の人の温かさが変わってなく、また来ることができて本当に良かった」と早出さん。二人はお互いに何かあった時には連絡を取り合っていたそう、早出さんはずっと会に行きたいと思っていましたが、修学旅行の翌年から広がったコロナの影響により再訪ができませんでした。

早出さんは、「民泊は1泊2日の短い滞在だったけど、その内容がすごく濃く、これまで体験したことや

感じたことがないことを経験できた。帰るときにさみしい、また来たいと思ったのはすごいことだと思った」と当時のことを振り返りました。

迎え入れた田口さんは「そういう風に感じてもらうてすごく嬉しい。自分も民泊を受け入れることで生徒からたくさん影響を受けている。今回のようにまた会いに来てくれるのもすごく嬉しい」と感激していました。民泊は修学旅行を受け入れて交流人口を増やしていくことはもとより、そこで大きな感動を与えて江田島市を好きになってもらうことも大きな目的の一つです。現在民泊の受け入れはできていませんが、再開の後は、生徒も家庭も感動できるような体験を続けていきたいです。

民泊家庭の活動に関心のある方は、交流観光課までお問い合わせください。



早出さんと田口さん

平成30年11月に民泊で本市を訪れた長野県岡谷東高校の早出裕美さんが、4年ぶりに民泊先であった江田島町の田口麻耶さん宅を訪れました。

vol.91
☎ 交流観光課 ☎ 0823-43-1632